

『講左衛門さん、前は意味深なことを言っていたでますん？』

『そうだったのう・・・今日は、石碑や石造物が減っているという話であったな。減ってしまった理由には、石碑を管理していないために、倒れてしまっ、その後、土や落ち葉に埋もれてしまい、分からなくなることがあるんじゃ。10年以上前になるかのう・・・古墓の確認作業をしたんじゃよ。以前話した東円寺の天井絵を描いてくれた谷村仲の話を覚えておるかのう。谷村仲は、東円寺で亡くなっていないので、お墓は京都にあったんじゃが、仲の息子の誠は、忍野村で亡くなっているから東円寺の過去帳に記載があるんじゃ。しかし、不思議なことにお墓が無いんじゃよ。見つからないという表現が正しいかもしれないかのう・・・

そこで、誠のお墓を探すことにしたんじゃ。誠と親戚関係にあると思われる人に話を聞くと、十数年前までは、その古墓の掃除をしていたそうじゃ。しかし、年齢とともにその場所まで行くことが困難になり、現在、古墓の掃除はしていないと言っていたんじゃが、もしかしたら、その場所に誠のお墓があるかもしれない

そう思って探しに行ったんじゃ。ところが、その場所にお墓は一つも見当たらず、本当にここなのだろうか？と疑ったほどだったんじゃ。けれども、間違いなく言われた場所なんじゃよ。何か手がかりがあるあるだろうと目をこらすと、土の下から三角にとがった石が目飛び込んできたんじゃ。その石をつまみ上げようとしたがビクともしないので、スコップなどを持ってその場所を掘って見たら、なんとお墓が埋もれていたんじゃ。その周辺を掘ると、お墓がいくつもできてな。けれども、残念なことに誠のお墓を確認することはできなかったんじゃよ。』

『宝探しのような話でますん。それからどうしたでますん？』

『結局、誠のお墓は見つかっていないんじゃ。けれども、十数年の間に、お墓は埋もれて確認できないことを知る機会となったんじゃよ。管理することはとても大切なんじゃ。また、石碑や石造物が減っている理由に、盗難があると思われるんじゃ。』 『盗難でますん??』

『そうじゃ。ある時、それは素晴らしい美術館に行ったじゃよ。そこには庭園があって、それは立派な石灯籠があったんじゃ。社のマークや建立した日付だけは残されていたんじゃよ。それは、見る人が見るととても不自然なんことなんじゃよ。憶測の域を超えないからのう・・・これ以上話を進めることはできないんじゃが、そういう意味においても管理することは、なにより大切なことだと思ふんじゃよ。』

『その通りでますん。石碑や石造物には、人々の思いが詰まっているでますん。』

『さて、少しの間、富士山の話が遠くなってしまっていたからのう。次回は、日本人が、いつの時代から富士山を意識するようになったのか、そんな話をしようかと思っておるぞ。』



ふじのだいがこうざえもん  
富士大我講左衛門 年齢不詳  
職業 大我講の先達  
(先達とは案内責任者)

クニマッスン

出生地 忍野村

山梨県水産技術センター

口癖 でますん・・・

